

リーマンショックは、
お弁当づくりのたのしさを
教えてくれた。



私たちの生活はどうなってゆく？
半谷先生、教えてください。

あの衝撃から2年。私たちの生活にはさまざまな変化が起きました。
でもそれは、決してマイナス面だけではありません。
たとえば、マイ弁当ブーム。自分で料理して、安心でおいしい
お弁当を食べることは、経済学的には自らの労働を通じて、
新たな価値を生む行為と言えるのです。
この考えをさらに広げれば、地域社会のあり方も変わるでしょう。
近所の人々と一緒に周辺のゴミ拾いをすれば、
「キレイな街」という価値を得られます。
お金でモノやサービスを買ったり、国や自治体に頼るのではなく、
私たち自身の力を生活や社会において発揮すること。
それが、日本の社会を次の段階へと進めてゆくと思います。

(経済学科 教授 半谷俊彦)



現代人間学部

表現学部

経済経営学部

小田急線鶴川駅から

徒歩約15分

<http://www.wako.ac.jp/>

ひとりを光らせる

和光大学